

廃棄物処理部門の排出抑制等指針の活用について

1. マニュアルの作成

特に指針値が適用される一般廃棄物処理施設を対象として、廃棄物処理部門の排出抑制等指針のマニュアルを作成・公表する。

マニュアルの構成案は以下のとおり。

- ・ 指針全体の目的・背景
- ・ 廃棄物処理部門の指針の概要
- ・ 取組メニューの解説（次ページ以降にサンプルを示す）
- ・ 指針値の解説
- ・ 施設ごとの排出原単位の算出方法
- ・ 検証
- ・ ケーススタディ

2. 専用ホームページへの掲載

資料 5 でも触れるが、取組メニューの解説、指針値の解説を専用ホームページに掲載するとともに、マニュアル本体も専用ホームページからダウンロード可能とする。また、Q&A集の作成及びホームページへの掲載も行う。

3. 今後の活用方法など

策定した指針値や参考値については、個々の施設における達成状況や、指針に沿って取り組んだ対策の効果等について情報収集を行い、一定期間後に必要に応じた見直しを行うことも検討したい。

(参考：マニュアルに記載する取組メニューの解説イメージ)

【対策名】

(1) 温室効果ガスの排出の抑制等に資する設備の選択

イ 廃棄物焼却施設(ガス化溶融施設を含む。)における設備

5)排ガス処理設備

触媒反応塔における低温触媒の採用による排ガス再加熱用熱量の低減、

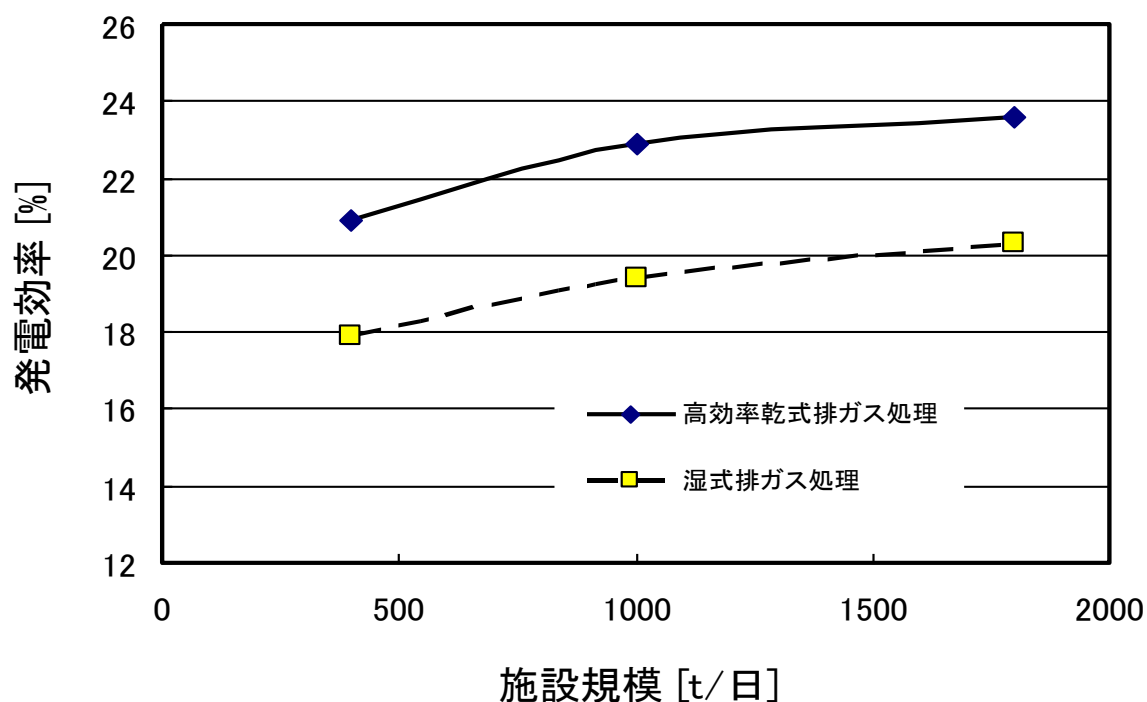
高効率乾式排ガス処理方式の導入、白煙防止装置の廃止その他の必要な措置

【概要】

低温触媒採用により必要とされる再加熱温度の上昇幅が小さくなるため、その上流にある再加熱器用の蒸気使用量が低減される。それにより発電効率が1～1.5%向上し発電量増大が期待できる。

重曹や高反応消石灰などの高効率反応薬剤を用いた乾式排ガス処理システムの導入によって、湿式排ガス処理方式相当の有害物質除去性能が期待される。湿式処理の場合に比べ排ガス再加熱器の必要蒸気量が大幅に削減できるため、発電効率が3～3.5%向上という非常に大きな発電量の増加が見込める。

白煙防止装置の廃止・運用停止により蒸気消費量を削減できるので、上記と同様、発電量の増加に寄与できる。



【出典・参考文献】

- ごみ処理施設整備の計画・設計要領 2006改訂版, (社) 全国都市清掃会議
- 高効率ごみ発電施設整備マニュアル, 平成 21 年 3 月, 環境省廃棄物対策課
- 廃棄物処理施設の基幹的設備改良マニュアル, 平成 22 年 3 月, 環境省廃棄物対策課

【対策名】

(1) 温室効果ガスの排出の抑制等に資する設備の選択

イ 廃棄物焼却施設(ガス化溶融施設を含む。)における設備

8)熱回収設備

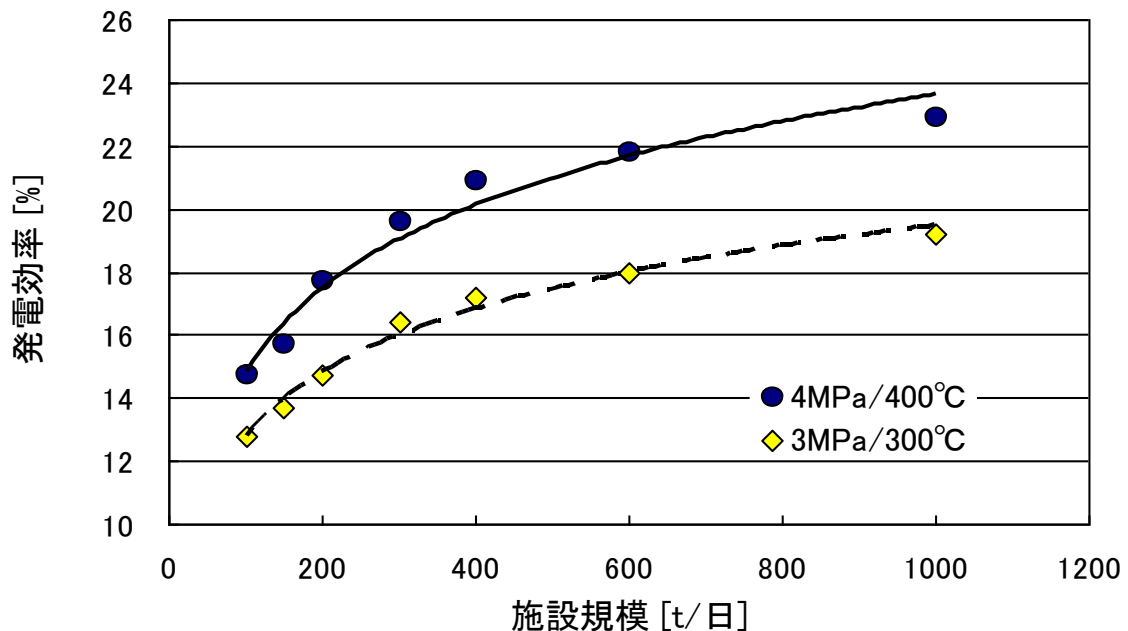
① ボイラー

高温高圧ボイラーの導入、エコマイザーの導入又は増設

【概要】

熱回収率向上によるエネルギー利用の増大。

例えば、蒸気条件を3MPa/300℃から4MPa/400℃にすることで、発電効率が1.5～2.5%向上する。また、低温エコマイザの導入により、ボイラ出口排ガス温度が250℃から190℃に変化する場合には、発電効率は約1%向上する。



【出典・参考文献】

- ごみ処理施設整備の計画・設計要領 2006改訂版, (社)全国都市清掃会議
- 高効率ごみ発電施設整備マニュアル, 平成21年3月, 環境省廃棄物対策課
- 廃棄物処理施設の基幹的設備改良マニュアル, 平成22年3月, 環境省廃棄物対策課